

2. おでかけ応援バスの の充実

●おでかけ応援バス改変の考え方

- ・おでかけ応援バスは、高齢者の外出促進や公共交通の利用促進に効果がある。
- ・利用可能日が限られているため、使いたいときに使えないことがあり、十分に利用促進効果が発揮されていない。
- ・利用者から利用日を増やしてほしいという要望が多い。



○「高齢者の社会参加」、「公共交通の利用促進」、「公共交通の維持・活性化」を図るため、利用可能日の拡大など、ニーズに合ったより利用しやすい制度への改変を目指す

●交通施策の視点

おでかけ応援バスの充実の考え方は、これまでの目的である高齢者の社会参加に加え、公共交通の維持・活性化を図ることを目的としており、これまでの要望や検証結果等を踏まえ、公共交通をより使いやすいものとするにより、利用促進につながる制度にする必要がある。



「公共交通の利用促進につながる持続可能な制度」とするためには、利用者ニーズや高齢者の外出動向等を考慮した費用対効果の高い制度、自家用車等から公共交通機関へ利用転換が促進される利便性の高い制度とすることが重要

● 日数制限の検討

- ・利用者ニーズ:「利用したいときに使いたい」
- ・費用対効果を考慮した適正な市負担額の支出



利用したい日に使えるが、月の上限日数を設定

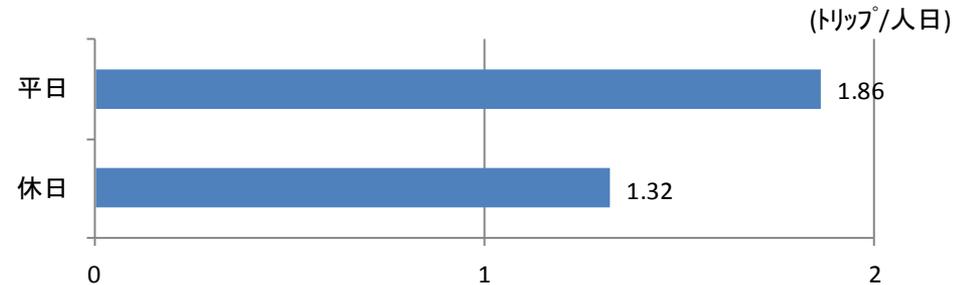
- ・利用したいときに使えるため、利用者の満足度は高く、普段あまりバスを利用しない人の新規利用や回数増が期待できる。
- ・適正な上限日数を設けることにより、日常的に使用している人に対する特定の助成を抑制し、利用者による不公平感を是正することができる。
- ・上限日数の設定により、利用状況や市の財政状況に応じた市負担額の調整ができる。

十分な利用促進効果、費用対効果が期待できる

※ ただし、実現するためには、ICカード導入等のインフラ整備が必要

●高齢者の外出状況(その1)

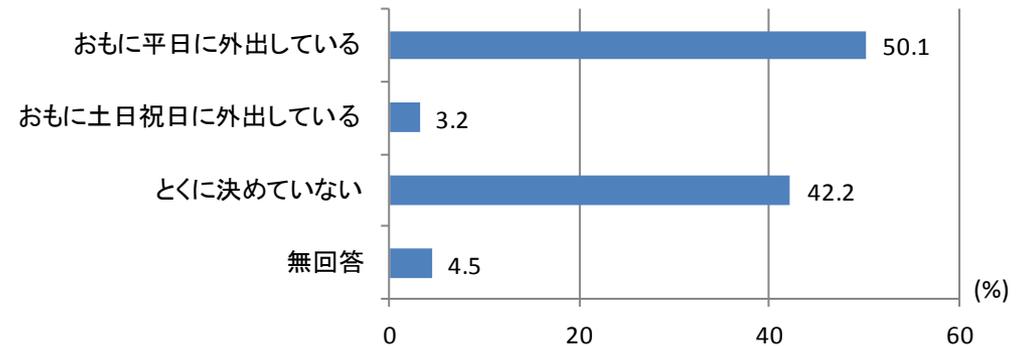
- ・外出機会を示す指標の一つである生成原単位をみると、高齢者は休日に比べ平日の方が高く、平日に外出する機会が多い。



高齢者の生成原単位

出典：第5回近畿圏PT調査速報値(堺市の独自集計)

- ・主に平日に決めて外出している高齢者は半数程度であり、主に土日祝日に決めて外出している高齢者はわずかとなっている。
- ・特に決めていない人は全体の4割程度であり、外出する曜日の自由度は高くなっている。



主に外出する曜日

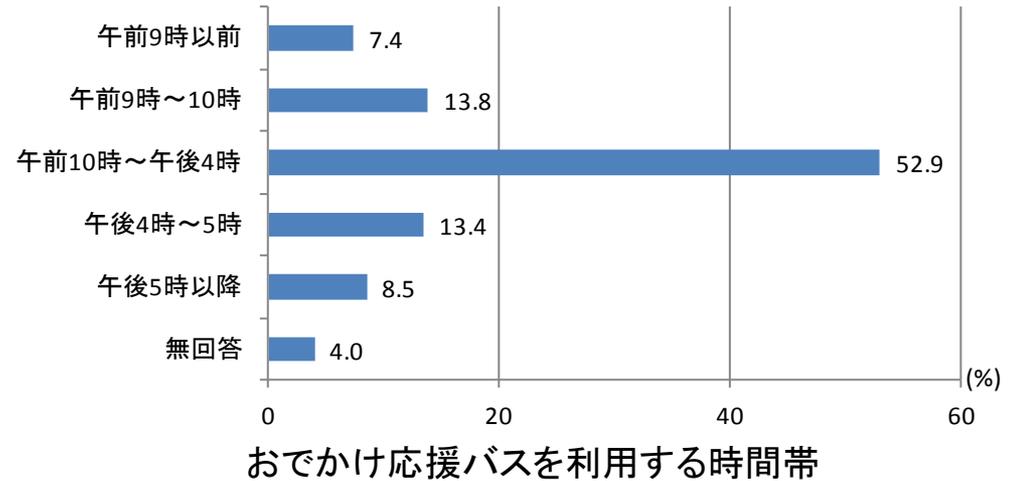
出典：高齢者社会参加促進事業にかかる
効果検証業務報告書(平成24年3月)

●利用可能日による比較検討【例】

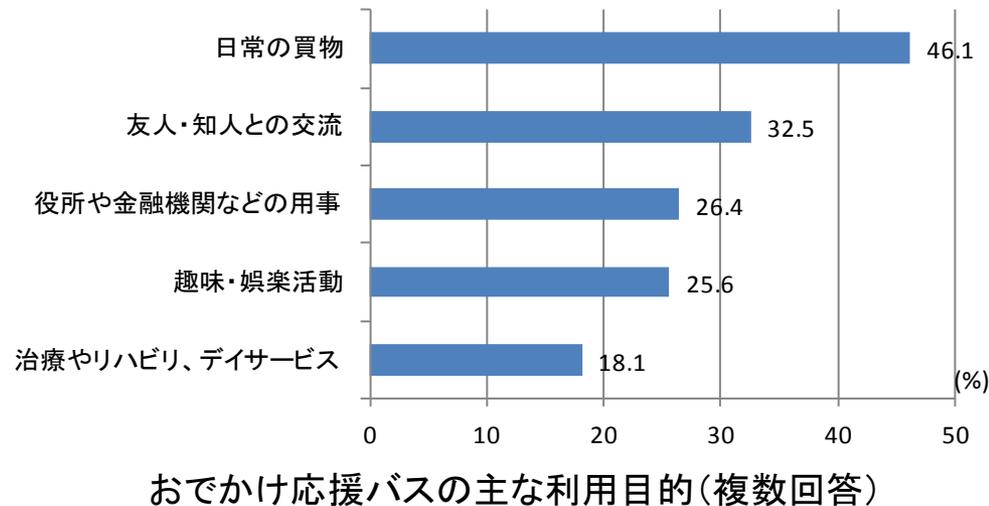
利用可能日	毎日	平日	隔日 3・6・9の付く日	
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズにある「いつでも利用できるようにしてほしい」に答えることができる ・定期的な利用が可能。 ・利用できる日が分かりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は平日に外出機会が多いことから、高齢者の外出動向と合致する ・利用者ニーズの高い平日においては定期的な利用が可能 ・利用できる日が分かりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在より、利用可能日が増えることにより、利用できる確率が上がる ・日によって利用できる曜日が変わるため、不公平感がない ・事業費を低く抑えることができる 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費が最も高い ・通勤時に利用者が増えれば運行に影響 ・バスを利用する人としていない人の格差が広がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズが低いとはいえ、土日祝日に使用できない ・通勤時に利用者が増えれば運行に影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な利用ができない ・利用できる日が分かりにくい 	
利用者ニーズ	高	←————→		低
事業費	高	←————→		低

●高齢者の外出状況(その2)

- ・「午前10時～午後4時」に外出する割合は全体の約5割、「午前9時～午後5時」に外出する割合は全体の約8割となっている。



- ・おでかけ応援バスの利用目的をみると、自由目的が多く、通院の早朝利用など、様々なニーズに対応する必要がある。



●利用可能時間帯による比較検討【例】

利用可能時間帯	終日	昼間のみ
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズにある「いつでも利用できるようにしてほしい」に答えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの空いている時間帯を有効活用できる。 ・朝夕混雑時の影響が緩和される ・事業費を低く抑えることができる
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費がかかる。 ・通勤時に利用者が増えれば運行に影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝の通院や遅い時間帯の帰宅等に利用できない ・利用できる時間帯が分かりにくく、トラブルの原因となる
利用者ニーズ	高 ←————→ 低	
事業費	高 ←————→ 低	

●今後の検討方針

おでかけ応援バスの利用可能日拡大等については、

- ・「利用可能日」、「利用可能時間帯」等の比較検討
- ・それぞれの事業費と実施による効果
- ・バス事業者との調整

などを踏まえて、最も効果的な利用可能日等の設定を検討